

MeshMgr By Ingenious
- Motion Sensor -
操作マニュアル

第 01.00 版
(IM-D-03-0100)
2026 年 10 月 02 日
Yoneda Information System.

改定履歴

版数	改定日	改定内容
01.00	2026 年 10 月 02 日	初版

目次

1	はじめに	1
2	設定の概要	1
3	表示アイコン	2
4	プロビジョニング	3
5	サブネットの設定	6
	(ア) サブネットの作成	6
	(イ) サブネットの削除	8
	(ウ) サブネット名の変更	10
6	アプリケーションキーの設定	12
	(ア) 人感センサー用アプリケーションキーの作成	12
	(イ) 通知グループ用アプリケーションキーの作成	14
	(ウ) アプリケーションキーの削除	16
	(エ) アプリケーションキー名の変更	18
7	グループの設定	20
	(ア) グループの作成	20
	(イ) グループの削除	23
	(ウ) グループ名の変更	25
8	人感センサの設定	27
	(ア) プロキシ機能の設定	27
	(イ) プロキシ機能の確認	28
	(ウ) リレー機能の設定	29
	(エ) リレー機能の確認	30
	(オ) サブネットの追加	31
	(カ) サブネットの削除	33
	(キ) アプリケーションキーの紐付け	34
	(ク) アプリケーションキーの紐付け解除	36
	(ケ) 通知グループの設定	37
	(コ) 通知グループの設定解除	39
	(サ) 人感センサの有効化/無効化の設定	41
	(シ) 人感センサの有効化/無効化の確認	43
	(ス) 再検知時間の設定	45
	(セ) 再検知時間の確認	47
	(ソ) 通知回数の設定	49
	(タ) 通知回数の確認	51
9	その他	53
	(ア) Mesh Library のリセット	53
	(イ) Mesh Database のエクスポート	55

(ウ)	Mesh Database のインポート	57
(エ)	ログのエクスポート.....	59
(オ)	すべてのログの削除.....	61
1 0	本書について	62

1 はじめに

人感センサ・デバイスを操作するためには、専用のアプリケーションを使用して設定する必要があります。
この説明書では、人感センサ・デバイスを設定する方法について記載します。

2 設定の概要

以下に、設定の概要（流れ）について記載します。

- ① デバイスをプロビジョニングします。
プロビジョニングされていないデバイスは、使用することはできません。
プロビジョニングが完了したデバイスを「ノード」と記載します。
- ② サブネットを作成します。
※予め「Default Subnet」が作成されていますので、特に必要がない場合は、この「Default Subnet」を使用してください。（サブネット名の変更は可能です。）
※ノードを操作するためには、少なくとも 1 つのサブネットが必要です。
- ③ アプリケーションキーを作成します。
ノードにアプリケーションキーを紐づけることにより、操作できるようになります。
- ④ グループを作成します。
作成したグループをノードに設定することにより、グループ単位でスイッチなどのノードを操作することができます。
- ⑤ ノードを設定します。ノードを操作するためには、以下の設定を行う必要があります。
 - (ア) 作成したサブネットにノードを追加します。
 - (イ) 作成したアプリケーションキーをサブネットに紐付けます。
 - (ウ) 作成したアプリケーションキーをノードに紐付けます。
 - (エ) 人感センサが検知した場合に通知するグループを設定します。
同じグループが設定されているスイッチなどのノードは、この通知メッセージを受信することができるようになり、通知メッセージによりスイッチを ON/OFF することができるようになります。
 - (オ) 人感センサを有効化します。
 - (カ) 人感センサの再検知時間を変更する場合は、適宜変更してください。
再検知時間は、人感センサが検知した後に、再検知するまでの時間です。
人感センサ・ノードは、検知すると通知グループに ON メッセージ（スイッチ・ノードのスイッチが ON になる）を送信します。再検知時間が経過した後、検知しなかった場合は、通知グループに OFF メッセージ（スイッチ・ノードのスイッチが OFF になる）を送信します。
※初期時間は、15 秒です。
 - (キ) サブネット、アプリケーションキー、グループ、ノードの関係について、「図 1 概要構成」に記載します。

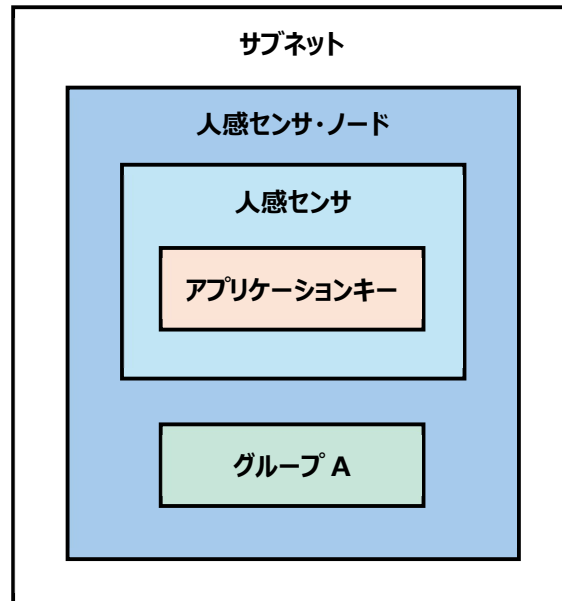


図 1 概要構成

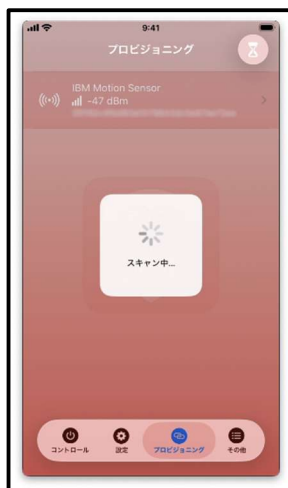
3 表示アイコン

	サブネットを表します。
	アプリケーションキーを表します。
	ノード（デバイス）を表します。
	グループを表します。
	グループに加入しているノード数
	グループに通知するノード数
	プロキシノードに接続されていることを表します。 (接続中)
	プロキシノードに接続されていないことを示します。 (切断中)

4 プロビジョニング



下部メニューの「プロビジョニング」をタップします



右上の「虫眼鏡」ボタンをタップします。

デバイスの探索が開始されます。

中断する場合は、右上の「砂時計」ボタンをタップします



発見されたデバイスが表示されます。

プロビジョニングを実施するデバイスをタップします

【補足】

デバイスが表示されない場合は、デバイスをリセットしてください。



デバイスの名前、UUID（デバイス識別番号）を確認してください。

※UUID は、デバイス固有の識別番号です。

必要に応じてプロキシ機能を有効化、または無効化します。

右上の「✓」ボタンをタップします。

【重要】

- デバイス进行操作するためには、プロキシ機能が有効化されたノードが少なくとも 1 台必要です。
- プロキシ機能が有効化されたデバイスが存在しない場合、デバイスに接続できなくなりますので、注意してください。



プロビジョニングが開始されます。



プロビジョニングが完了すると、「デバイスをプロビジョニングしました。」と表示されます。

「OK」ボタンをタップします。

【補足】

プロビジョニングに失敗した場合は、デバイスをリセットした後、再度、プロビジョニングを実施してください



プロビジョニングが完了すると、プロビジョニングしたデバイスは、表示されなくなります。

5 サブネットの設定

(ア) サブネットの作成

ノードを追加するサブネットが少なくとも 1 つが必要です。サブネットが存在しない場合は、作成してください。
予め「Default Subnet」が作成されています。



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「サブネット」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。



右上の「+」ボタンをタップします。



名前欄に作成するサブネット名を入力します。
右上の「✓」ボタンをタップします。



「サブネットを作成しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットの作成に失敗した場合、再度、実施してください。



作成したサブネットが表示されていることを確認してください。

(イ) サブネットの削除

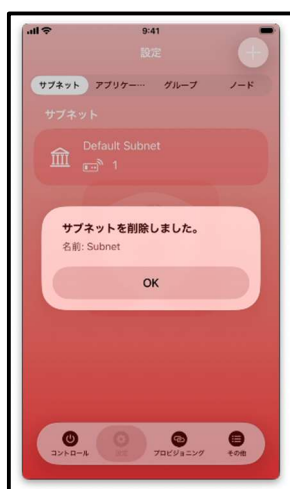
※サブネットがノードで使用されている場合、削除することができません。



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「サブネット」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。



削除するサブネットを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。



「サブネットを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットの削除に失敗した場合、再度、実施してください。



サブネットが削除されていることを確認してください。

(ウ) サブネット名の変更



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「サブネット」をタップします。
サブネットの一覧が表示されます。



名前を変更するサブネットを左にスワイプします。
「ギア」ボタンをタップします。



「名前」欄にサブネット名を入力します。
「✓」ボタンをタップします。



「サブネット名を変更しました。」と表示されます。
「OK」をタップします。

【補足】

サブネット名の変更に失敗した場合、再度、変更を行ってください。



サブネット名が変更されていることを確認してください。

6 アプリケーションキーの設定

(ア) 人感センサー用アプリケーションキーの作成

少なくとも1つのアプリケーションキーが必要です。

アプリケーションがない場合、アプリケーションキーを作成してください。



下部メニューの「設定」をタップします。

上部メニューの「アプリケーションキー」をタップします。



右上の「+」ボタンをタップします。



「名前」欄に作成するアプリケーションキー名を入力します。
右上の「✓」ボタンをタップします。



「アプリケーションキーを作成しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

アプリケーションキーの作成に失敗した場合、再度、実施してください。



作成したアプリケーションキーが表示されていることを確認してください。

(イ) 通知グループ用アプリケーションキーの作成

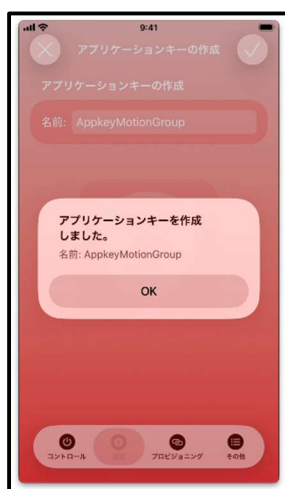
人感センサが通知する場合に使用する専用のアプリケーションキーを作成してください。



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「アプリケーションキー」をタップします。
右上の「+」ボタンをタップします。



「名前」欄に作成するアプリケーションキー名を入力します。
右上の「✓」ボタンをタップします。



「アプリケーションキーを作成しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
アプリケーションキーの作成に失敗した場合、再度、実施してください。



作成したアプリケーションキーが表示されていることを確認してください。

(ウ) アプリケーションキーの削除

※アプリケーションキーがノードで使用されている場合、削除することができません。



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「アプリケーションキー」をタップします。



削除するアプリケーションキーを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。



「アプリケーションキーを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。



アプリケーションキーが削除されていることを確認してください。

(エ) アプリケーションキー名の変更



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「アプリケーションキー」をタップします。
アプリケーションキーの一覧が表示されます。



名前を変更するアプリケーションキーを左にスワイプします。
「ギア」ボタンをタップします。



「名前」欄にアプリケーションキー名を入力します。
「✓」ボタンをタップします。



「アプリケーションキー名を変更しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

アプリケーションキー名の変更に失敗した場合、再度、変更を行ってください。



アプリケーションキー名が変更されていることを確認してください。

7 グループの設定

(ア) グループの作成

人感センサが検知したことを通知するために使用するグループを作成します。



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「グループ」をタップします。
グループの一覧が表示されます
右上の「+」ボタンをタップします。



「名前」欄に作成するグループ名を入力します。



「アプリケーションキーの設定」項目の「アプリケーションキーを選択してください。」をタップします。



アプリケーションキーの一覧が表示されます。
グループで使用するアプリケーションキーをタップしてください。

【注意】
グループで使用するアプリケーションキーは、別途、専用のアプリケーションキーを作成してください。



右上の「✓」ボタンをタップします。



「グループを作成しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップしてください。

【補足】

グループの作成に失敗した場合は、再度、実施してください。



作成したグループが表示されていることを確認してください。

(イ) グループの削除

※グループがノードで使用されている場合、削除することができません。



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「グループ」をタップします。
グループの一覧が表示されます。



削除するグループを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。



「グループを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。



グループが削除されていることを確認してください。

(ウ) グループ名の変更



下部メニューの「設定」をタップします。
上部メニューの「グループ」をタップします。
グループの一覧が表示されます。



名前を変更するグループを左にスワイプします。
「ギア」ボタンをタップします。



「名前」欄にグループ名を入力します。
「✓」ボタンをタップします。



「グループ名を変更しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

グループ名の変更に失敗した場合、再度、変更を行ってください。



グループ名が変更されていることを確認してください。

8 人感センサの設定

(ア) プロキシ機能の設定



「プロキシ機能」項目の「有効／無効」欄の「トグル」ボタンをタップし、有効／無効を切り替えます。

「設定」ボタンをタップします。



「状態を変更しました。」と表示されます。

「OK」をタップします。



「有効／無効」欄の「トグル」ボタンが、有効化／無効化されていることを確認してください。

(イ) プロキシ機能の確認



「プロキシ機能」項目の「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。



「状態を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。



「有効/無効」欄の「トグル」ボタンに現在の状態が反映されます

(ウ) リレー機能の設定



「リレー機能」項目の「有効／無効」欄の「トグル」ボタンをタップし、有効／無効を切り替えます。

「設定」ボタンをタップします。



「状態を変更しました。」と表示されます。

「OK」をタップします。



「有効／無効」欄の「トグル」ボタンが、有効化／無効化されていることを確認してください。

(エ) リレー機能の確認



「リレー機能」項目の「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。



「状態を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。



「有効/無効」欄の「トグル」ボタンに現在の状態が反映されます

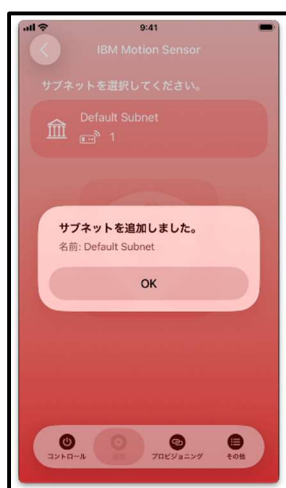
(オ) サブネットの追加



「追加されたサブネット」欄の「サブネットの追加」をタップします。



サブネットの一覧が表示されます。
ノードに追加するサブネットをタップします。



「サブネットを追加しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットの追加に失敗した場合、再度、実施してください。



サブネットが追加されていることを確認してください。

(カ) サブネットの削除



削除するサブネットを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。



「サブネットを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
サブネットの削除に失敗した場合、再度、実施してください。



サブネットが削除されていることを確認してください。

(キ) アプリケーションキーの紐付け

【注意】

アプリケーションキーを紐付けるサブネットが選択されていることを確認してください。

アプリケーションキーの紐付けは、サブネット単位で管理されます。



「追加されたサブネット」欄を確認し、正しいサブネットが選択されていることを確認してください。

「アプリケーションキーの紐付け」をタップします。

【補足】

青色サブネットマーク：選択しているサブネット

白色サブネットマーク：未選択のサブネット



紐づけることができるアプリケーションキーの一覧が表示されます。

※他のサブネットで使用されているアプリケーションキーは、一覧に表示されません。

紐付けるアプリケーションキーをタップします。



「アプリケーションキーを紐付けました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

アプリケーションキーの紐付けに失敗した場合、再度、実施してください。



アプリケーションキーが紐付けられていることを確認してください。

(ク) アプリケーションキーの紐付け解除



紐付け解除するアプリケーションキーを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。



「アプリケーションキーを紐付け解除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

アプリケーションキーの紐付け解除に失敗した場合、再度、実施してください。



アプリケーションキーが紐付け解除されていることを確認してください。

(ケ) 通知グループの設定

人感センサが検知したときに、通知するグループを設定します。



「人感センサの設定」欄の「通知グループの設定」をタップします。



「通知グループの追加」をタップします。



グループの一覧が表示されます。
設定するグループをタップします。



「グループを設定しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

グループの設定に失敗した場合、再度、実施してください。



「通知グループの設定」欄に設定したグループが表示されていることを確認してください。

(コ) 通知グループの設定解除



「人感センサの設定」欄の「通知グループの設定」をタップします。



設定解除するグループを左にスワイプします。
「ゴミ箱」ボタンをタップします。



「グループを削除しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】
グループの設定解除に失敗した場合、再度、実施してください。



グループが設定解除されていることを確認してください。

(サ) 人感センサの有効化/無効化の設定

人感センサを有効化、あるいは無効化します。



「人感センサの設定」欄の「有効化/無効化の設定」をタップします。



「有効／無効」欄のトグルスイッチをタップし、有効／無効を切り替えます。
「設定」ボタンをタップします。



「状態を変更しました。」と表示されます。
「OK」をタップします。

【補足】

有効／無効に失敗した場合、再度、実施してください。



「有効／無効」欄のトグルスイッチが、有効化／無効化されていることを確認してください。

(シ) 人感センサの有効化/無効化の確認



「人感センサの設定」欄の「有効化/無効化の設定」をタップします。



「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。



「状態を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。



「有効化/無効化」欄のトグルスイッチに現在の状態が反映されます。

(ス) 再検知時間の設定

人感センサの再検知時間を秒単位で設定します。

例えば、人感センサが検知を通知すると、スイッチが ON 状態になり、再検知時間が経過した後に、検知しなければ、スイッチは OFF 状態になります。再検知時間が経過した後に、再度検知したときは、ON 状態が継続します。



「人感センサの設定」欄の「再検知時間の設定」をタップします。



「再検知時間(秒)」欄に時間を入力します。
「設定」ボタンをタップします。



「再検知時間を設定しました。」と表示されます。

「OK」をタップします。

【補足】

再検知時間の設定に失敗した場合、再度、実施してください。

(セ) 再検知時間の確認

人感センサに設定されている再検知時間を取得します。



「人感センサの設定」欄の「再検知時間の設定」をタップします。



「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。



「再検知時間を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

再検知時間の取得に失敗した場合、再度、実施してください。



「再検知時間(秒)」欄に、取得した時間が反映されます。

(ソ) 通知回数の設定

人感センサが検知した場合に他のノードに通知するメッセージの通知回数を設定します。

使用環境（電波環境など）により、他のノードに通知されない場合は、通知回数を増やしてください。

【注意】通知メッセージは 1 秒間隔で送信されます。通知メッセーの送信にかかる時間を再検知時間以下になるように設定してください。

通知回数×1 秒 < 再検知時間

例えば、再検知時間が 10 秒の場合、設定可能な最大回数は 9 回です。

※再検知時間を超える回数を設定した場合、通知を受信するノードのスイッチが ON/OFF を繰り返す状態が発生します。



「人感センサの設定」欄の「通知回数」をタップします。



「通知回数」欄に回数を入力します。
「設定」ボタンをタップします。



「通知回数を設定しました。」と表示されます。

「OK」をタップします。

【補足】

通知回数の設定に失敗した場合、再度、実施してください。

(タ) 通知回数の確認

人感センサに設定されている通知回数を取得します。



「人感センサの設定」欄の「通知回数」をタップします。



「状態確認」欄の「確認」ボタンをタップします。



「通知回数を取得しました。」と表示されます。
「OK」ボタンをタップします。

【補足】

通知回数の取得に失敗した場合、再度、実施してください。



「通知回数」欄に、取得した通知回数が反映されます。

9 その他

(ア) Mesh Library のリセット

【注意】 Mesh Library をリセットすると、登録されているすべての情報が初期化されますので、注意してください。改めてノード（デバイス）を再登録するまで、“コントロールできなく”なります。



下部メニューの「その他」をタップします。
「Mesh Library のリセット」をタップします。



「Mesh Library をリセットしてもよろしいですか。」と表示されます。
リセットする場合は、「リセット」をタップします。
キャンセルする場合は、「キャンセル」をタップします。



以上で、Mesh Library のリセットは終了です。

(イ) Mesh Database のエクスポート

【注意】

エクスポートしたファイルには、セキュリティを確保するための暗号化キーなどの情報が含まれているため、ファイルの扱いには、注意してください。

また、暗号化キーなどの情報が消失した場合、ノード（機器）をコントロールできなくなるため、定期的に Mesh Database をエクスポートして、バックアップを取得してください。

エクスポートしたファイルを変更や修正しないでください。この場合、正しくインポートできない場合があります。



下部メニューの「その他」をタップします。

「Mesh Database のエクスポート」をタップします。



Mesh Database ファイルが表示されますので、エクスポートするファイルをタップします。



「ファイルに保存」をタップします。



保存する場所を選択し、上部の「保存」ボタンをタップします。



以上で Mesh Database のエクスポートは終了です。
上部の左の「戻る」ボタンをタップします。

(ウ) Mesh Database のインポート



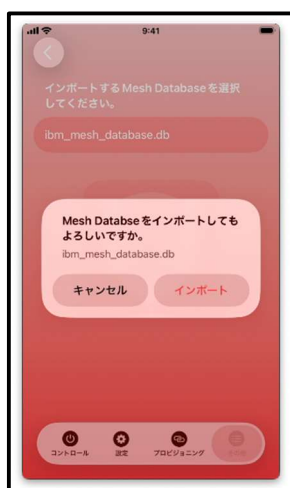
下部メニューの「その他」をタップします。
「Mesh Database のインポート」をタップします。



ファイルが表示されますので、インポートするファイルをタップします。

【補足】

- インポートするファイルが表示されない場合、インポートするファイルがアプリケーション名のフォルダ「MeshMgr By Ingenious」に、が保存されていることを確認してください。
- インポートするファイルの拡張子が、「*.db」になっていることを確認してください。



「Mesh Database をインポートしてもよろしいですか。」と表示されます。
インポートする場合は、「インポート」をタップします。
キャンセルする場合は、「キャンセル」をタップします。

【注意】

登録されているすべての情報が上書きされますので、注意してください。
誤ったファイルをインポートした場合、ノード（デバイス）のコントロールができなくなります。



「OK」ボタンをタップします。

【補足】

Mesh Database のインポートに失敗した場合、再度、実施してください。



以上で Mesh Database のインポートは終了です。

上部の左の「戻る」ボタンをタップします。

(エ) ログのエクスポート

アプリケーションの動作に関する問い合わせを頂いた場合、ログの送付をお願いする場合がございます。この場合、以下の記載の通りログをエクスポートして送付してください。



下部メニューの「その他」をタップします。
「ログのエクスポート」をタップします。



ログファイルが表示されます。
エクスポートするログファイルをタップします。



下部の「ファイルに保存」をタップします。



保存する場所を選択し、上部の「保存」ボタンをタップします。



以上でログのエクスポートは終了です。
上部の「戻る」ボタンをタップします。

(オ) すべてのログの削除



下部メニューの「その他」をタップします。
「すべてのログの削除」をタップします。



「すべてのログを削除してもよろしいですか。」と表示されます。
削除する場合、「削除」をタップします。
キャンセルする場合、「キャンセル」をタップします。



以上で、すべてのログの削除は終了です。

1 0 本書について

- 本書の著作権は当社に帰属します。本書の一部または全部を当社に無断で転載、複製、改変などを行うことは禁じられております。
- 本書に記載された仕様、デザイン、その他の内容については、予告なしに変更される場合があります。
- 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどがありましたら、当社までご連絡ください。
- 本製品の使用に際しては、本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。特に、注意事項として記載された取扱方法に違反する使用は行わないでください。

以上